

たい りょう き うた

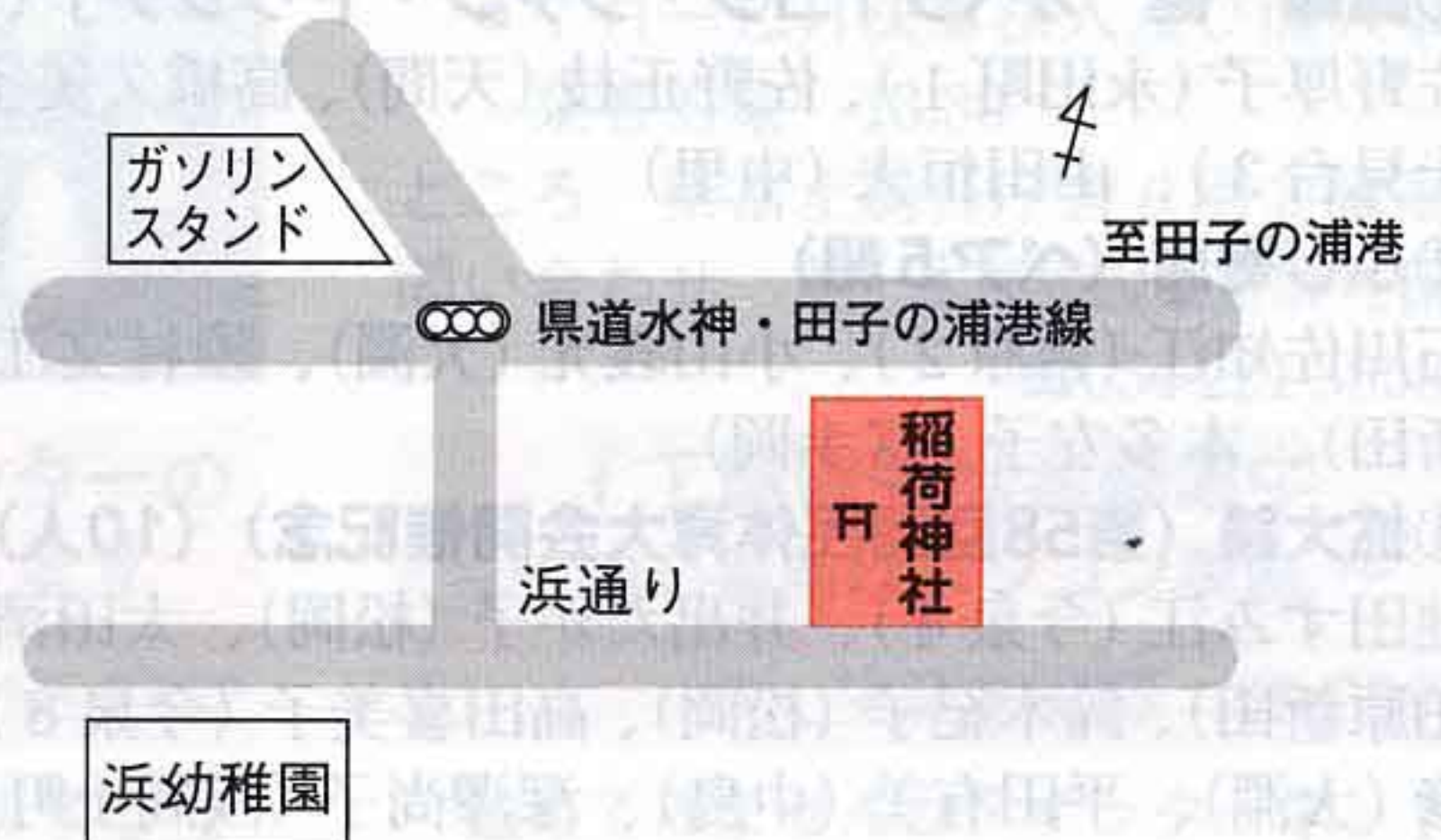
大漁木やり唄



第8回



浜幼稚園運動会での発表



稲荷神社祭典 3月3日(日)

明治のころ、田子浦地区に住むほとんどの人たちは、農業と漁業を生活の糧としていました。漁業は沿岸漁業が中心で、地元漁師が網を引いていました。大正に入ると大謀網漁(大きな網を船で引いて、ブリやマグロなどをとる漁法で定置網の一種)が導入され、繁忙期になるとたくさんの人手が必要となりました。そのため、地元の漁師以外にも、遠くは東北地方から働きに来た漁師とも一緒に仕事をしようになりました。厳しい海の仕事をやる漁師の心を、一つにするために生まれた労作歌が、「大漁木やり唄」と「沖上がり音頭」です。

昭和六十年、中丸の海で生まれたこの郷土芸能を、伝統文化として後世に残そうと、地元有志十二人が集まり『大漁木やり唄中丸保存会』が結成されました。漁の雰囲気味わってもらおうと、約六メートルの船と網、大漁旗などを使い、その歌声を披露しています。会員は船で漁に出ていた人ばかりなので、網の引き方など当時の漁の様子が再現されています。



大漁木やり唄中丸保存会
会長 味岡 政彦さん(中丸)

大漁木やり唄と沖上がり音頭は、富士市の民謡の中でも、特に少ない海の労作歌です。毎月第三金曜日の夜は、公会堂で会員同士楽しく練習をしています。会員数は十三人、年代は五十代が二人で後は七十代・八十代です。

保存会の主な活動としては、ふるさと芸能祭での発表や田子浦みなと祭り、稲荷神社祭典、文化祭での披露など、地元の行事を中心に活発に活動しています。また、田子浦中学校で「郷土芸能クラブ」を誕生させ、この民謡を教えた。浜幼稚園の運動会で園児と一緒に演じたりと、地域に伝わる海の伝統を地元の子どもたちに伝えていきます。

海で培われたこの歌が、いつまでも伝承されるようこれからも頑張っていきますよ。

こちら編集室

バイク通勤の私にとって最も辛い季節がやってきました。万全の装備で防寒対策を講じて、寒さのあまり顔面がこわばってきます。「早く職場へ着いて暖まりたい」という気持ちを抑えながら、安全運転を心がけています。

ところが、先日車を走っていた車が突然左折。ゆっくり走っていたので幸いぶつからずに済んだのですが、どきっとした瞬間でした。スピードの出し過ぎが交通事故の大半を占めているそうです。皆さんも焦らず安全運転を。(冷や汗)

人口 242,046人 (前月比+101)
男 120,504人 (+47)
女 121,542人 (+54)
世帯 82,816世帯 (+23) 1月1日現在
編集・発行 富士市総務部広報広聴課
〒417-8601 静岡県富士市永田町1-100
☎51-0123(代) ㊚51-1456



PRINTED WITH SOY INK